

第2回 学期制検討に関する懇談会（小田原市立小・中学校） 会議概要

- 1 日時 平成30年6月6日（水）15時00分～16時45分
- 2 場所 小田原合同庁舎 2E会議室
- 3 出席者 石塚 等 堀 賢一郎 市川 嘉裕 遠藤 清子
初瀬川 孝夫 八木 規孝 岩田 真由美 中村 栄江
本多 忠幸 寺内 浩司 上村 勝治
大木 富男 益田 麻衣子
<教育委員会>
内田 里美 友部 誠人 飯田 義一 石井 美佐子
鈴木 一彦
<事務局>
高田 秀樹 大須賀 剛
- 4 配布資料
 - ・次第レジュメ 名簿
 - ・第2回 学期制検討に関する懇談会 開催要項
 - ・資料A 学期制に関する懇談会について 計4ページ
 - ・資料B 小田原市学期制検討に関する懇談会開催要項
 - ・資料C 学期制検討に関する懇談会 実態調査（アンケート調査）について
 - ・資料D-1 アンケート用紙・回答用紙
 - ①教職員用 ②保護者用 ③学校評議員・学校運営協議会委員用
 - ・資料D-2 各種通知
 - ①学校あて「調査の依頼」
 - ②学校あて「保護者あて事前通知の配付依頼」
 - ③【再掲】教職員用補助資料
 - ④保護者あて「調査のお願い（事前予告通知）」
 - ⑤学校評議員・学校運営委員あて「調査のお願い」資料D-2（参考資料：平成23年12月 学校2学期制検討委員会 報告）
 - ・資料E S Q Sシステム及び集計表イメージ
 - ・資料F 平成29年度～平成32年度・関係項目一覧
- 5 傍聴者 0名

6 会議内容

<p>1 開会</p> <p>2 自己紹介</p> <p>3 内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・懇談会の公開について ・資料の確認 ・日程について
<p>(1) 学期制検討に関する懇談会について</p> <p>①経緯や趣旨等について (資料B)</p> <p>②第1回懇談会のふりかえりと第2回懇談会の位置づけ (資料A)</p>	
<p>○事務局から説明</p> <p>○質問・意見</p>	<p>①経緯や趣旨等について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・懇談会で学期制についての検討を重ね、平成31年度の教育委員会定例会において審議し決定していく。 ・懇談会では「懇談会としてのまとめ」を作成する。これは教育委員会定例会で判断するための資料となる。 <p>②第1回懇談会のふりかえりと第2回懇談会の位置づけ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1回懇談会については会議概要のとおり。 ・横浜市の2学期制、3学期制の校数について前回質問の回答。 (平成29年度 小学校について、2学期制が315校、3学期制が24校、 中学校について、2学期制が78校、3学期制が68校) ・第2回懇談会の位置づけは今後実施する実態調査の確認や意見交換、第4回、第5回懇談会の「内容、視点、課題」について探ること。 <p>なし</p>
<p>(2) 実態調査 (アンケート調査) について</p> <p>①対象について (資料A、項目5)</p>	
<p>○事務局から説明</p> <p>○部会長から補足</p> <p>○質問・意見進行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小中学校教職員については、校務システム端末が配付されている教職員のうち、拠点校指導員と学校司書を除く。 ・保護者については、市内小中学生保護者・無作為抽出720名(80名×9学年)。 ・他については、前回確認したとおり。 <p>○部会長から補足</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校職員については、根拠となる様式22号があることから、対象漏れを防ぐことができる。 ・保護者については、学校を通さず直接事務局から郵送し、返信用封筒にて回収すること、「教職員用」と「学校評議員・学校運営協議会用」は学校を通して実施・回収することを話し合った。 <p>○質問・意見進行</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特にPTAの視点からいかがか。

大木顧問	・無作為抽出720名という数値について、これは学校の規模によって分けているということか。
事務局	・完全無作為抽出になる。
大木顧問	・市に登録されている方の中から、子どもの生まれた年度ごとの完全無作為抽出。どこの学校の方が選ばれるのかは全く分からないというものになる。
事務局	・地域柄というものがあると思う。 大雑把でよいのである程度、学校ごとに分けるのはどうか。大規模校と小規模校では親の意見も変わってくると思うので、ある程度地域別でアンケートを実施してもよいのではないか。無作為ならもう少し多めにアンケートをとってもよいのではないか。
事務局	・地域別の名簿が出るわけではない。地域別にするとう無作為の概念から外れてしまう。今回は、全体像から見ていくという考えである。360名を超えれば統計的に十分に信頼するに値するというものである。コストの面もあるのでご了承いただけるとうありがたい。
石塚教授	・720名というのは全体の中で占める割合はどのくらいか。
事務局	・児童生徒数は約14,000人。そのうちの720人。
石塚教授	・最終的にまとめるときには、よく抽出率を示すので、ご検討いただけるとよい。保護者にとっては計算するのもなかなか難しいと思うので。

(2) 実態調査 (アンケート調査) について
 ②アンケートについて (資料D-1)
 ③各種通知について (資料D-2)
 ④集計について (資料E)

○事務局から説明	②アンケートについてポイント3点 ・シンプルなものであること。 ・「わからない」という項目があること。 ・「学期制のあり方」を選ぶ項目について、現在の子供達にとってどちらがよいのかを伺うようにしたこと。 ③各種通知について ・学校あて「調査の依頼」 ・学校あて「保護者あて事前通知の配付依頼」 ・教職員に配付する「教職員用補助資料」 ・保護者あて「調査のお願い」 ・学校評議員・学校運営委員あて「調査のお願い」 ④集計について ・集計したものを9月の調査部会で確認、10月の懇談会で集計表イメージのようなものを提示できるよう努める。
○部会長から補足	調査部会で話し合ったことについて報告 ・重点項目だけに「わからない」を入れていないことについては、特に結論は出ていない。ただ、「学期制のあり方について選んでください」のところ「子どもたちにとってよりよい」という文言を付け加えた方がよいのではないかと。教育長

<p>○事務局から 説明</p>	<p>の日頃の「子どもありき」との言葉や事務局からの「子どもを中心に考えて」「子どもにとってよりよいものを」という発言を考えてのことである。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・資料D-2については、公平性を考えるとアンケートに添える必要はないのではないか。 ・以上、ご意見をいただけたらと考えている。 <p>特に意見をいただきたい2点</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者用アンケート（D-1-②）の（5）「小・中学校の学期制のあり方について選んでください」の問いの回答として「わからない」という項目を入れるかどうか。 ・保護者用アンケートに資料（D-2）を添えた方がよいか。
<p>○質問・意見 進行</p> <p>大木顧問</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・まず1点目、保護者用アンケート「わからない」という項目があった方がよいかかどうかについて保護者の立場からいかがか。 ・「わからない」があると、自分もそれを選んでしまう気がする。資料D-2を添えることにより、しっかり判断できるのではないかという思いもある。 <p>「わからない」という項目を入れることにより、保護者がどのぐらい真剣に考えているのか、興味の度合いを知ることができるのではないか、という思いもある。どちらがよいのか、今はかなり複雑な気持ちである。</p>
<p>益田事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「どちらかという」という項目があるので「わからない」はいらないのではないか。 ・保護者がこのアンケートが来た時に資料D-2を目にしたら、それだけで見たくないと思う人もいるのではないか。中身が知りたい方もいると思うので、例えば資料D-2を教育委員会のホームページで見られるようにしておき、参考にした方はどうぞというかたちにしておけば、興味を持つ人は、見て確認するのではないか。全ての対象者に資料D-2を送るのは賛成しないが、ホームページに公開されている場所（URL）を紹介するなどして資料を見られるようにしておくことは必要。 ・（2）の項目についてだが、小学生と中学生の子どもをもつ親は、どちらの立場で答えたらよいのか困るのではないか。集計のことを考えてみても、どちらの立場で答えているのかを明確にした方がよいのではないか。例えば封筒に書いてあるお子様の立場で答えてくださいという方法にした方が正確な数が集計できるのではないか。
<p>進行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・お二人とも保護者の立場で捉えていただいた。ご指摘のとおりだと感じた。保護者の方はお忙しく、アンケートが届いても回答することに結びつかないこともあるかもしれないという、保護者の現状をしっかりと捉えたうえでのご意見であったと思う。
<p>石塚教授</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「わからない」を入れるかどうかは、設計の段階では、重要である。「わからない」を入れることにより、一般論ではあるが、相当な割合で「わからない」を選んでしまう。 ・学期制について学校の先生方はよくわかっていらっしゃるが、保護者の方はなかなか意識する機会がないので、「わからない」を選んでしまうことが予想される。「わからない」はなくてもよいかと思う。

<p>飯田課長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・また、通常はどちらかのお子さんということで回答していく。複数のお子さんについて回答していくことは難しいのではないかと。調査の正確性を考えても、複数のお子さんについて回答することは難しいであろう。どちらかの立場で答えることがよいと思う。両方当たらないよう、独占的にならないよう、気をつけていただけたらよいと思う。 ・学年ごとに無作為というのは、一つの家庭に2通届くケースもあるのか。 ・2通届くことを仮定するのであれば、6月26日通知文の中に別々の学年で届く場合があるという旨のお知らせをする必要があるのではないかと。 ・仮に同じ家庭に2通送られないようにするのであれば、それは無作為と言わないのではないかと。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料Aの3ページ、項目5、注釈をご覧いただきたい。 第1回でいただいたご意見の中から注釈を添える必要があるであろうということであったが、小田原市の中で、住所や保護者名が一致した場合ははじくことができ、無作為抽出に影響ないことは確認した。調査の公平性はあるということである。
<p>進行 事務局 進行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・一つの家庭には1通しか来ないということか。 ・その通りである。同じ住所の場合は1通である。 ・そうであれば、(2)で両方にチェックするというのはどういうことになるか。封筒に名前が書いてあるお子さんについて答える、とした方がわかりやすいのではないかと。
<p>事務局</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・そのように変更することは可能であるので対応させていただく。 前回の会議で、「児童名、保護者様と届いた場合に、どの立場で答えればよいのか。」という話題が出たが、「トータルで判断すればよい。」ということであったので、今回はこのような原案で出している。(小学生Aさん(弟)宛で届いても、回答は中学生Bさん(兄)について行うということでもよいのでは、という話であった。)
<p>岩田総括教諭</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・本日のご意見を伺って、(2)の表記については修正したいと考えている。 ・(2)については、保護者の方のご意見を聞いて、回答はどちらかにした方がよいと感じた。 ・前提として、例えば小学校は2学期制、中学校は3学期制ということも考えられる。子どもの名前の立場で保護者が回答していけばよいと思う。 ・保護者への資料D-2を読むと、かなり2学期制に傾いた意見が多くなっている。このアンケートをとる際に、公正な立場でという確認があったかと思うので、この資料は送付せず、ホームページで見られるようなかたちにする方がよいのではないかと。
<p>進行</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者用アンケート(2)については、どちらか封筒にきた名前で回答。 ・保護者用アンケート(5)については、「子どもたちにとってよりよい」を入れる。「わからない」という選択肢は入れない。 ・参考資料はホームページ等で見られるようにして、家庭には送らないという方向で。
<p>石塚教授</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・(1)に保護者の年齢を問う項目があるが、この意味を考えておく必要がある。教職員は年代を問うことによって、2学期制を経験したかどうかという基準にはなるかもしれないが、保護者はずっと小田原で育ったかどうかとも様々である。年

事務局	<p>年齢をきかない方がよいということではなく、きくのであれば理由を持っておいた方がよい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校評議員の方と保護者の方のアンケートを比べたいという思いがあった。評議員の方はご自身の体験に基づいた判断をされるのかと考えていたためである。比較をしたいという意図はあったが、年齢については、石塚先生がおっしゃるほどの深い気持ちで意図して入れたものではなかったと、今のご意見を伺って気がついた。
石塚教授	<ul style="list-style-type: none"> ・プライバシーに関わる部分でもあるので、慎重にした方がよいということである。年齢の項目を入れるべきではないということではなく、なぜ年齢を問うのかときかれたときに答えをもっておくことが必要。
事務局 進行	<ul style="list-style-type: none"> ・ただ、教職員については年代を調べていきたい。 ・年齢をきくことが、経験値をきくことに値するものではないと石塚先生の話から感じたので、事務局で今後検討していくようにしたい。

(3) 今後について

①第3回懇談会までの計画・確認

②第3回以降の懇談会に向けていさいを

○事務局から 説明	<p>①第3回懇談会までの計画・確認（レジメ裏）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第3回懇談会は10月18日（木）それまでについては、7月からアンケート調査と集計を実施し、集計結果を第3回懇談会には提示できるよう努める。
○質問・意見	<p>②第3回以降の懇談会に向けて（資料F）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程のあり方、施設のあり方についても考えていくことが必要。 ・第4回、第5回のテーマを決めていくために、「切実な問題」「課題としていること」「石塚先生に聞いてみたいこと」等を伺いたい。
進行	<ul style="list-style-type: none"> ・名簿の順にご意見を伺いたい。（石塚先生は最後）
堀校長	<ul style="list-style-type: none"> ・外国語活動も始まり、時数の確保は小学校では切実な問題となっている。働き方改革と逆行するような流れになっている。石塚先生は先進的な事例もお持ちだと思うので、アイデアがあればいただけたらと思う。行政の方からも保護者の方からもお話をいただけたら大変助かる。
市川校長	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の校長会で情報交換をする中で、学期制についての話題は出る場面もある。学校としての立場もあり、保護者の方のお考えもあるので、この会は有意義であると承知している。 ・現状を申し上げますと、2学期制をこれまで続ける中で、高校改革等もあり、高校進学に向けた準備も非常に煩雑になってきている。それを踏まえ、校長たちも学校運営者の立場として意見を述べさせていただければありがたい。
遠藤教頭	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校の教頭会でも話題になっている。保護者の方々のご意見も踏まえ、アンケートの件や課題についても話題にしていきたい。
初瀬川教頭	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の教頭会では、特に戻したいといった話題にはなっていない。今後も教頭会で皆さんの意見を伺っていきたい。次の会までに各学校等の様子も探していきたい。

八木総括教諭	・小学校の現場では特に議論にはなっていない。保護者の方の考えも参考にしながら考えていけるとよい。
岩田総括教諭	・小学校の現場で、教員の中からは特に意見は出ていない。 移行期間ということで、時数の増加となり、今後どのように教育課程をつくっていくのか悩んでいるので、そのあたりについても意見が交換できるとよい。
中村総括教諭	・中学校の現場でもどちらがよいといった意見は耳に入ってきていない。今後アンケート実施という流れになるので、学校の設備面、学習指導要領や教育課程の実施等、広い視野で捉える中で回答が得られるとよいかと考えている。
本多総括教諭	・アンケートの結果や懇談会の話し合いを一つのきっかけとしていきたい。中学校は生徒の自主的な活動を教員が支援していくところである。教員ができるだけ、生徒とともに活動できる時間をつくり出していくという視点から、アンケートの結果やここでの話し合いを活かしていきたい。
寺内総括教諭	・小学校では移行期間であり、教職員もこのように考えられる機会が設けられるということで、どのような結果がでるのかを見届けていきたい。
上村教諭	・どちらの方向性になったとしても、コメント欄には課題が書かれる。その課題を解決していけるようにしていく必要がある。子どもたちのためのよりよい環境整備の一環としての学期制の検討であると思う。
大木顧問	・自分はずっと小田原で育ち、3学期制しか経験していない。小学生の娘は2学期制を経験した。個人的には3学期制が好きである。子どもとのコミュニケーションをとる時間も考えながら、検討をしていきたいと思っている。
益田事務局	・先日、小学校の学校運営協議会で話題になったのは外国語活動と道徳に評価をつけていくのはどうなのかということである。先生方の働き方改革という話もあったが、やることや新しいことが増える中で、どちらの学期制にしていったらよいのかということはきちんと考えていった方がよい。
石塚教授	・アンケート調査を中心にご議論いただいた。最終的には教育委員会の定例会で決めると聞いている。アンケート調査が持つ意味は大きいと考える。また部会の皆さんに非常にいいねにまとめていただいたものだと考えている。送り方、返し方も含めて、アンケートは公正・中立が求められる。調査の信頼性が損なわれてしまうことがよくあるので、アンケートが実際に役に立つ、きちんとしたデータが得られるようなものにしていかれることを期待している。 ・これから新しい学習指導要領実施となる。また、社会に拓かれた教育課程とあるが、地域の方や保護者の方との連携・協働が求められる。 ・教員の働き方改革も話題になっている。学校内でのいろいろな無駄、形骸化しているものを見つめ直していくような必要もある。
進行	・様々な視点からご意見をいただいたので、それらの視点から今後の議論を進めていきたい。
友部副部長	・アンケートの集計結果は、どのようなタイミングで定例会や市議会に報告していくのか。
事務局	・予定はしていないので、何かよいアイデアがあれば教えてほしい。
進行	・今のところは、2学期制か3学期制が決まったところでの報告と考えているということでしょうか。
事務局	・6回の懇談会が終わった後、まとめをご報告すればよいかと事務局としては考え

友部副部長	<p>ている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・9月の集計が終わった段階で中間報告として定例会では報告するとよい、また議会でも報告をしていくとその後がスムーズになるので、それがよいかと思う。
進行	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの結果で決まりではないが、結果だけは一度定例会や議会で報告した方がよいかと思うので事務局として考えさせていただきたい。
市川校長	<ul style="list-style-type: none"> ・その報告が本当に必要であれば、前段階で確認したうえでアンケートに進むべき。そうではないかたちで進んできている以上、6回の懇談会の後での報告でよいのではないか。 ・定例会での報告はよいかもしれないが、議会への報告はいかがか。定例会自体も公開ではある。結果を公にしてよいのかどうかは議論が必要である。
堀校長	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目の懇談会で、報告は31年4月と確認されていると思うので、中間の報告は求められない限りはする必要はないのではないかと。調査していく中で足かせができてしまう。(公正・中立性を保つためにも)
進行	<ul style="list-style-type: none"> ・報告することによりアンケートの結果が歪んでしまうようなことがあってはいけない。 <p>単純に、アンケートの結果のみを出すことは可能なのではないかと思う。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・結果を出すことは問題ない。懇談会は公開。会議概要も公開。 <p>校長会お二人の意見は、結果を出すことによって、そのリターンを受けることが今後の懇談会に影響が出るということだと捉えているので、事務局としては全く必要がないと考えている。</p>
上村教諭	<ul style="list-style-type: none"> ・議会に出すと数字だけが取り上げられるのではないかと。コメントも大切である。私たちは数字もコメントも見たうえで検討する必要がある。両方の課題を検討していくことが大事だが、議会に出して数字だけに目が向けられてしまうのではないかとこの点が心配である。
初瀬川教頭	<ul style="list-style-type: none"> ・1回目で報告の時期について確認されているのでそれでよい。結果を伝えることも大切だと思うが、この場合は公開なので、懇談会で知ることができる。議会で聞いた方の個人的な感情が入った意見がひとり歩きをすることが心配。アンケート結果が全てではない。この先の話し合いが進めにくくなることはないようにしたい。知りたければ、懇談会を傍聴していただければよい。最終的な報告でお伝えすればよいと考える。
進行	<ul style="list-style-type: none"> ・今後検討させていただく。
<p>4 閉会</p> <p>○事務局から</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・第4回、第5回については、今後のアンケート結果から様々なことが見えてくるであろうということがよくわかった。ご意見を踏まえたくて今後の計画を進めていきたい。 ・皆様は組織の代表として参加されているので、組織への報告も是非お願いしたい。